

次年度に向けての課題と対応方針

今年度の状況(概要)

施策の実施状況

- λ 土木学会などの学識者やNPOと連携して水質一斉調査を実施し、特に湾奥部の水質環境が生物の棲みにくい環境であることを改めて確認
- λ 陸域からの汚濁負荷削減は、下水処理場の高度処理、合流式下水道改善等で着実に推進し、これらの支援となる施策として、第5次総量規制基準が全面適用され、近畿の21世紀の下水道ビジョン策定、合流式下水道の緊急改善計画が策定された
- λ 海域では、生物生息の場である浅場、干潟が失われた状況を少しでも改善すべく、人工的に浅場、干潟をつくる取り組みの結果、魚類、貝類、カニ、エビ、ゴカイなどの生物が確認され、「場の整備」が生物生息に有効であることが確認されつつある

市民・NPOなどと協働の取り組み

- 行政と市民、住民、NPOなどのボランティア活動を巻き込んだ、様々な協働の取り組みが活発に行われ、市民などに森・川・海での大阪湾の再生に対する意識が広まりつつある

将来の水質の見通し

- 「人々の親水活動に適した水質レベルを確保する」という目標について、行動計画実施後の夏期表層CODの概略的な予測計算を行った結果、大阪湾全体で改善されることが予測された
- しかし、湾奥の一部で人々の親水活動に適した水質レベルに届かないことが予測された

水質の改善(生物の生息、人々の親水)

今年度の主な取り組み

- λ 下水道など: 4処理場を新設、5処理場で高度処理化、合流式下水道緊急改善計画策定など
- λ 河川浄化: 河川浄化、河川浄化施設機能向上
- λ 生物による水質浄化: コンブ、ワカメの養殖実験
- λ 流況改善: 実証実験の候補地の選定

次年度の取り組みに向けての課題と対応方針

- λ 陸域から大阪湾への流入負荷量の継続的な削減
 - 次期総量規制の検討、陸域負荷削減対策の着実な推進
 - 市民の水環境への意識向上(市民への呼びかけなど)
 - ボランティアと連携による森林整備、木材利用の推進

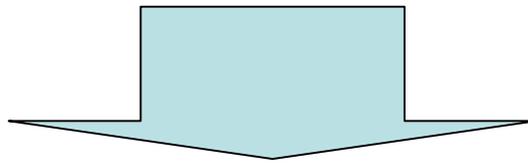
λ 湾奥部における水質改善施策の実施

海域での水質改善: 流況制御、底泥対策等の実現に向けた積極的な検討の推進。尼崎21世紀の森周辺(国土交通省「環境行動計画モデル事業」)で各省庁・自治体の連携で事業推進

多様な生物の生息・生育する場の再生

今年度の主な取り組み

- λ 干潟・藻場: 須磨沖での藻場造成、神戸空港における人工ラグーン整備、堺泉北港での人工干潟整備、阪南2区人工干潟整備後の生物生息状況調査



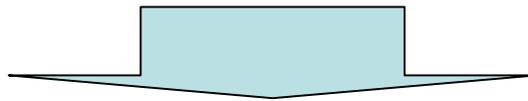
次年度の取り組みに向けての課題と対応方針

- λ 干潟・藻場等の再生
 - ➡ 浅場、干潟等の生物生息環境の場の改善に資する計画・整備をさらに推進する(有効な造成方法の検討、生物の生息状況の確認)

親水性の向上(快適に海にふれあう・憩い)

今年度の主な取り組み

- λ 臨海部における緑地: 尼崎21世紀の森、堺7-3区共生の森
- λ 人と海のふれあいの機会: なぎさ海道ウォーク、阪神なぎさ回廊ウォーク



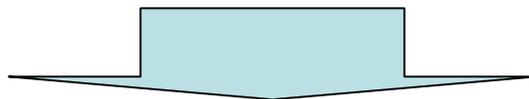
次年度の取り組みに向けての課題と対応方針

- λ 臨海部の企業等との連携・協働
 - ➡ 臨海部に立地する企業等との連携、協働
 - ➡ パブリックアクセス等について協力関係の構築の推進

浮遊・漂着・海底ごみの削減(ごみのない海)

今年度の主な取り組み

λ 河川、海域でのごみ回収: 河川や海岸での美化活動、海洋環境整備船によるごみ回収、底曳き漁船による海底ごみの除去(合計約2,400tのごみを回収)



次年度の取り組みに向けての課題と対応方針

λ ごみの発生源対策の実施

➡ 市民への啓発・普及(成ヶ島等の自然海岸への大量のごみ漂着等の問題)

➡ ごみの発生源の調査を実施

大阪湾再生のためのモニタリング

今年度の主な取り組み

- λ 環境の環視:大阪湾再生水質一斉調査
- λ 市民参加:アマモ場(社会実験)のモニタリング、魚釣り環境モニタリング検討、海の環境学習ハンドブック(子ども編)の作成
- λ 汚濁メカニズムの解明:北部港湾域の流動・底質調査など
- λ 環境情報の共有化と発信:大阪湾環境データベース一般公開、データ検索システム(クリアリングハウス)の構築検討

次年度の取り組みに向けての課題と対応方針

- λ 大阪湾再生水質一斉調査の発展
特に湾奥部の水質の把握、干潟・浅場の有効性確認など
- λ それぞれのアピールポイントでのモニタリング
アピールポイントで、新たなモニタリングポイント設置の検討
- λ 汚濁メカニズムの解明
北部港湾域の沈降物調査、DBFレーダ観測に向けた調査など
- λ 市民にわかりやすい指標(生物など)でのモニタリング
生物モニタリング(海の国勢調査)や環境学習結果の活用など

実験的な取り組み(市民などと協働の取り組み)

今年度の主な取り組み

- λ ミニ人工干潟による生物生息空間調査
- λ コンブ養殖パネルによる「コンブの森づくり」社会実験
- λ 「アマモ移植による都市型ダイビングスポットづくり」
- λ 大阪湾再生水質一斉調査
- λ 市民と協働のフォーラム開催など



次年度の取り組みに向けての課題と対応方針

- λ 市民などと協働の取り組みの展開
- ➡大阪湾再生を通じた環境意識の向上、市民等との協働の推進(森・川・海での市民、子供、NPOなどのボランティア活動を巻き込んだ協働の取り組みの展開)
- ➡大阪湾再生のシンボルマークの作成、協働の活動PR

新たな機関の参画による推進体制の強化と多様な主体との連携強化

次年度の取り組みに向けての課題と対応方針

λ 新たな機関の参画による推進体制の強化

近畿経済産業局：企業等との連携強化

λ 各機関の連携強化、市民・子供・NPOなどとの協働の取り組みの拡充

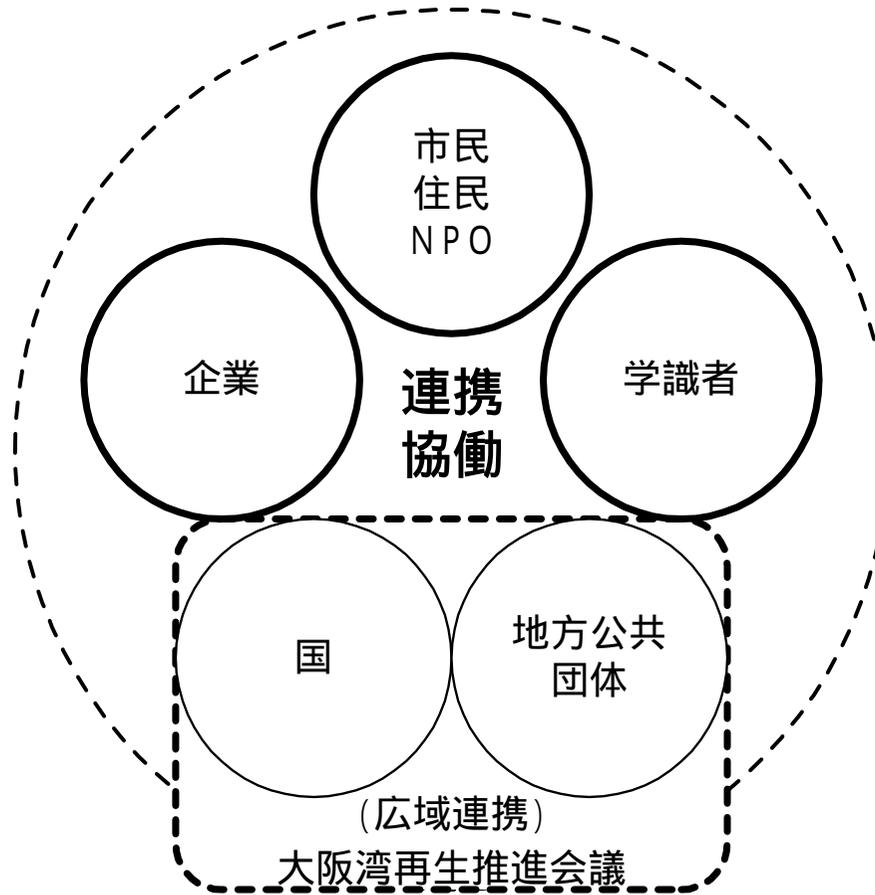
λ 市民・住民・NPO・学識者・企業などと協働での推進体制づくり

大阪湾再生のシンボルマークの作成

大阪湾再生に向けて

大阪湾再生行動計画

～ 森・川・海のネットワークを通じて、
美しく親しみやすい豊かな「魚庭(なにわ)の海」を回復し、
京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する～



元気UP! 関西 大阪湾再生!